

支 出 書

会 派 名	市 民 連 合	整理No. 1 - 1
科 目 (該当○印)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 調査研究費 2 研 修 費 3 資料作成費 4 資料購入費 5 広 報 費 6 広 聴 費 7 要請・陳情活動費 8 会 議 費 9 人 件 費 10 事 務 所 費	
金 額	49,050円	
支出年月日	2025年 10月 23日	
支出内容	2025年10月6日・7日 熊本県八代市（八代市農協・トマト選果場） 「福山地方卸売市場流通対策協議会 八代市」 への出張旅費	
支 出 先	別添、領収書のとおり	

領 収 書 (該当○印)	<input checked="" type="checkbox"/> (別紙の領収書添付用紙へ添付)
	無 領収書を添付することができないため、上記の内容の支出をしたことを証明する。 会派の代表者名 <input type="checkbox"/>

2025年(令和7年)10月10日

福山市議会議員
池上丈夫 様

株式会社福山地方卸売市場
代表取締役 池田幸博

八代市視察研修交通費の精算について

表記のとおり視察研修実施に伴う交通費について、次のとおり精算しますので、よろしくお取り計らいください。

八代市視察研修精算書

実施日:2025年(令和7年)10月6日(月)~10月7日(火)

(単位:円)

全体必要経費			個人負担額 (一人当たり)	
支払項目	金額	摘要		
個人負担対象経費			47,850	
内訳	JR団券(クーポン) 福山~八代	372,000	新幹線及び特急料金 @31,000×12人(クーポン)	31,000
	貸切バス借上料 (クーポン)	99,000	2日間 小型マイクロバス	8,250
	宿泊料(クーポン)	88,800	1泊 7,400円×12人 (クーポン)	7,400
	朝食代 (クーポン)	14,400	1日目 @1,200円×12人=14,400円(クーポン)	1,200
合計			47,850	

以上のとおり、精算申し上げます。

正対照金額
 支払額 ... $47,850円 - 1,200円 + 2,000円$
 $= 48,650円$

研究研修・調査報告書

会 派 名	市 民 連 合	報 告 日	2025年10月8日
代 表 者	池上 文夫 (印)	報 告 者	池 上 文 夫 (印)
参 加 者	池 上 文 夫		
実 施 日	2025年10月6日(火) ~ 2025年10月7日(水)		
研究研修・調査等の場所	熊本県八代市 施設見学「トマト選果場」 八代市古閑浜町3609番地		
目 的	■施設見学「トマト選果場」 八代市古閑浜町3609番地		
	■意見交換「熊本県八代地域農業協同組合」		
	八代市西方町1525番地		
研究研修・調査等の概要			
国内最大規模と言われる「中央トマト選果場」施設は、スケールと内容において参考になるものでした。広大な八代平野二件させされているこの施設は、トマト選果場利用組合が所有し、その内訳は部員数293名、作付面積：トマト142.0ha・ミニトマト：29.6ha・メロン12.7ha、取扱量・取扱金額はトマト13,572.225kg 4,143,447,386円メロン468,624kg 179,577,496円。			
施設は1998年選果場建屋建設・自動選別機導入し、選果能力：6,688トン、導入後の効果：生産者作業時間の短縮、受益者面積の規模拡大。			
また2012年にイタマーズ式選果機導入、この事業名は「強い農業づくり交付金」で選果能力10,100トンで導入効果は選果能力の向上、外観・内部品質の向上が上げられていました。			
新選果機の概要は、総事業費 6億7263万円のうち 国の補助金3億2030万円			

工期 2012 年 5 月から 9 月の期間に主な設備機器はイタマーズ式選果機、光センサー製函機、ホールマークシステム、自動梱包機、昇降機、プールコンベア、係数処理装置ほかを整備されていました。

作業工程等を視察しましたが、トマトの大小や形などを自動的に選別しており作業者への負担もかなり軽減され、先進的な機器材の導入の効果が表れているようでした。また。箱詰め工程もスムーズにされており新選果場利用組合の成功例を学ぶ機会となりました。

福山ブランドの農産物の選果場もこのような先進地を参考にされ、効率的な作業の推進で経営力の向上を期待したいものです。

以上

※詳細は別紙あり

福山地方卸売市場流通対策協議会視察研修
先進地施設見学及び意見交換会概要

日時：2025年（令和7年）10月7日（火） 9:00～11:50
場所：施設見学「トマト選果場」（熊本県八代市古閑浜町 3609 番地） 9:00～10:30 意見交換「熊本県八代地域農業協同組合」（熊本県八代市西方町 1525 番地 1） 10:45～11:50

参加者（福山地方卸売市場流通対策協議会及び市場関係者）

No.	所属	役職	名前	備考
1	流通対策協議会	会長	池上文夫	福山市議会議員
2		副会長	池田幸博	市場長、(株)福山地方卸売市場代表取締役社長
3		委員	稲葉誠一郎	福山市議会議員
4		委員	奥陽治	福山市議会議員
5		委員	福井余緒	市場運営委員会 会長、(株)福山地方卸売市場 取締役会長
6		委員	小林廣幸	福山青果(株) 代表取締役社長、青果部会長
7		事務局	卜部光央	福山市経済環境局経済部 農林水産振興担当部長
8		事務局	林茂晃	福山市経済環境局経済部 農林水産課長
9	市場関係者	卸売業者 開設会社	坪井信夫	備後青果(株) 代表取締役社長
10			藤井紀貴	福山大協青果(株) 代表取締役社長
11			藤井聰邦	福山青果(株) 常務取締役執行役員
12			宮岡咲子	(株)福山地方卸売市場 事務員

視察先対応者

No.	所属	名前	備考
1	施設見学	東家誠也	トマト選果場利用組合 組合長
2		西郡義博	熊本県八代地域農業協同組合 営農部 施設園芸課 課長
3	意見交換会	梅田文夫	熊本県八代地域農業協同組合 代表理事副組合長
4		濱田哲治	熊本県八代地域農業協同組合 代表理事専務
5		山本久生	熊本県八代地域農業協同組合 経済担当参事
6		杉谷武徳	熊本県八代地域農業協同組合 営農部 部長
7		(西郡義博)	熊本県八代地域農業協同組合 営農部 施設園芸課 課長

【施設見学】

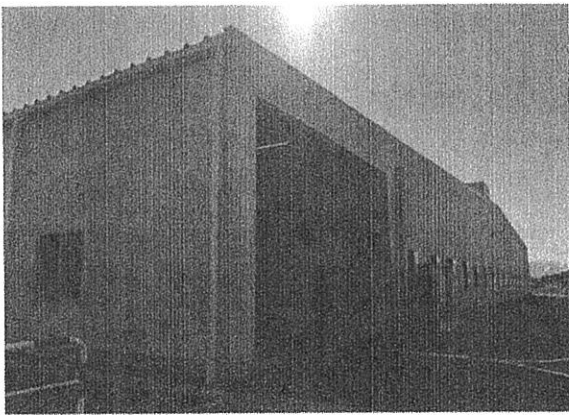
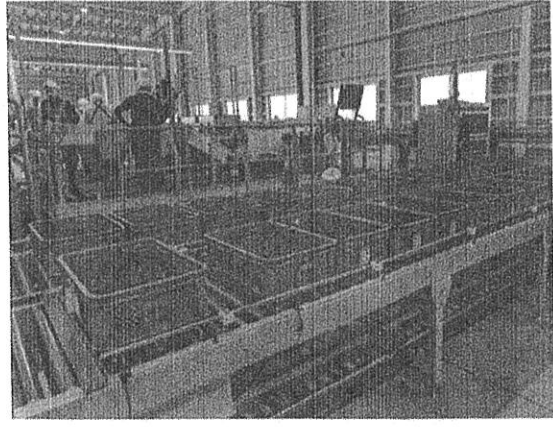
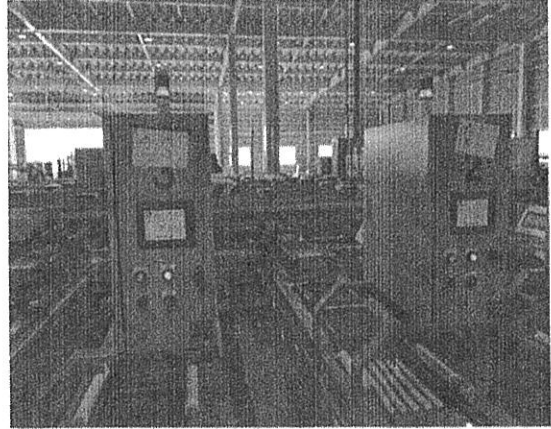
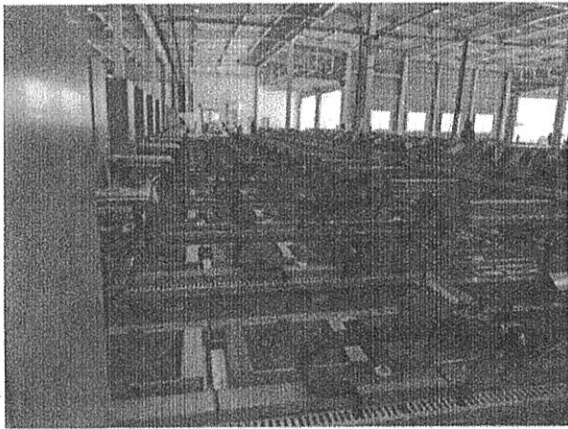
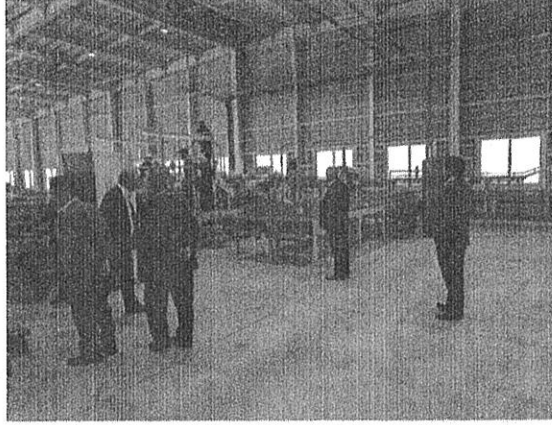
日時：2025年（令和7年）10月7日（火） 9:00～10:30

内容：国内最大規模といわれる「中央トマト選果場」施設を視察した。

概要：次のとおり

施設の概要

- 1 施設の所有者
トマト選果場利用組合
(部員数 293名、作付面積：トマト 142.0ha・ミニトマト 29.6ha・メロン 12.7ha)
- 2 取扱量・取扱金額
トマト 13,572,225 kg 4,143,447,386 円
メロン 468,624 kg 179,577,495 円
- 3 施設の変遷
1998年（平成10年）選果場建屋建設・自動選別機導入
事業名：地域農業基盤確立 農業構造改善事業
選果能力：6,688 t
導入後の効果：生産者作業時間の短縮、受益者面積の規模拡大
2012年（平成24年）イタマーズ式選果機導入
事業名：強い農業づくり交付金（生産者事業）
選果能力：10,100 t
導入後の効果：選果能力の向上、外観・内部品質の向上
- 4 新選果機の概要
2012年度（平成24年度）繰越事業
強い農業づくり交付金（生産総合事業）
事業費 672,630,000 円
機械器具資材費 614,850,000 円
組立据付工事費 20,640,000 円
荷造輸送費 2,640,000 円
諸経費 2,470,000 円
消費税 32,003,000 円
国庫補助 320,300,000 円
工期 2012年（平成24年）5月31日～9月29日
主な設備 ・イタマーズ式選果機8条、光センサー8台
・製函機2台、ホールマークシステム2式
・自動梱包機2台、昇降機1台
・プールコンベア改修、計数処理装置1式 ほか
- 5 選果能力
選果能力（1条あたり） 12,240 玉/時
実選果能力（1条あたり） 10,404 玉/時
1日選果能力（1条あたり） 66,273 玉/時
中央トマト選果場能力 530,184 玉/日



施設視察の所感

今年の 8 月の大雨により耕地に大きな被害を受け、生産量が今だ回復していない時期での視察となったため通常期より少ない量であったが、そのような状況下でも選果場ではミニトマトの選果が行われていた。

イタマーズ式とは、選果機の流れにおいて、段差のない（トマトを傷めることのない）選果機からトマトをスライドさせて排出口へ排出させる方式をいう。選果機自体はシンプルな構造であり、部品や駆動部も少ないため、省エネと雑音、故障が少ない選果機であることを学んだ。

大きさや形によりそれぞれ自動的に選果されていく流れ作業で、生産者や職員の作業時間の短縮が図れ、より効率的な出荷作業を可能としていることは、多額の資金が投入できる大規模産地ゆえのことと感じた。

こうした設備を導入し、作業効率を上げることに成果が出ている中で驚いたところは、最終的に箱詰めする商品のチェックは多くの職員（非常勤雇用）で行っており、品質に対する生産者の思いを感じた。

【意見交換会】

日時：2025 年（令和 7 年）10 月 7 日（火） 10:45～11:50

内容：八代地域農業協同組合との意見交換会

概要：次のとおり

次第

- 1 開会 八代地域農業協同組合 営農部 施設園芸課 課長 西郡義博
- 2 挨拶 八代地域農業協同組合 代表理事副組合長 梅田文夫
福山地方卸売市場流通対策協議会 会長 池上文夫
福山地方卸売市場 市場長 池田幸博
- 3 研修 (1) J A やつしろの取り組みについて
(2) 福山地方卸売市場の取り組みについて
(3) 意見交換
- 4 閉会

意見交換会概要

「J A やつしろの取り組みについて」 説明者：八代地域農業協同組合 営農部 施設園芸課 課長 西郡義博氏

J A やつしろの農産物

J A やつしろが生産している主要な農産物は、平野部から中山間地まで続く耕作地で多様な品目が栽培されている。トマトをはじめイチゴ、メロン、ブロッコリーなどの栽培が特に盛んだが、晩抽油（ばんべいゆ）といった八代地区の独自の産物も生産され、多種、多様な農産物を生産している。また、八代といえば「い草」と言われ、国産畳表の 90% のシェアを誇り、栽培の歴史

が500年という農産物も生産している。

取扱高（販売高）

取扱高では、平成8年度において全体で255億円といった実績の中で、特にい草については108億円とすべての農産物の5割近い取扱量があったが、平成17年度から生活様式の変化によりい草の価格が低迷し、露地野菜への転換を推奨していった。平成26年度から露地野菜の生産が安定し、さらに施設園芸へと伸長していった。令和5年度には過去最大の販売高292億円に達した理由としては、園芸品目収量増加によるものが大きく、全体の販売高のうち園芸品目が243億円を占めている。

このように10年ごとに大きな転機を経験している中で、今後も園芸品目を中心に販売高拡大を図り、生産者の所得向上と安定的な生産量の確保を図っていく。

J Aやつしろの農産物の出荷先

J Aやつしろの農産物は全国各地へ出荷しているが、シェア率の高い地域は東京、大阪を中心とした地域となっており、全体の72.7%を占めている。中四国と九州については、物流コストの関係で重量野菜（キャベツ）の比率が高く、遠くの消費地へは軽いもの、近くの消費地へは重いものといった傾向が強く出ている。

中四国地区のシェアでは、令和6年度の実勢において取扱量が全体の9.0%、取扱金額では8.1%となっており、それぞれ4,812t、2,036,620千円の実績がある。その中で福山地方卸売市場への出荷実績は、取扱量で1,815t、888,416千円と中四国地域の約半数を占めている重要な出荷先と認識している。ボリュームの大小はあるが、多くの品目が出荷されている。

産地・J Aやつしろの役割

産地としてのJ Aやつしろの今後を考える中で、その役割と実践については、農業を継続できる生産者の手取りの最大化をめざし、農産物単価の向上や生産・流通経費の削減を図っていく必要がある。また、日本の食の供給地としての安定供給を図るため、物量の確保や物流の効率化を実践していくこととしている。

課題としては、市場原理による価格決定に委ねることや消費者への理解の醸成が十分ではないこと、生産コスト削減が限界にきていること、賃金上昇と制度の維持に課題があると同時に、2024年問題といわれる物流コスト上昇の問題や、2030年問題といわれる日本が直面する複合的な社会問題への対応が求められている。さらに、生産技術を高位で保つこととその平準化や、管内物流の確保を図っていく課題があると考えている。

こうした課題に対応していくためには、今後、単位収量の増加を図るためにまず施設園芸の収量を伸ばし、露地野菜の耕作面積を広げていく必要がある。そして全品目においてロスをなくし、生産者の確保やコスト低減、集選果場の運営に意を注ぐとともに、2024年問題や2030年問題に対応するため、集選果場の集約化を進め、1人集選果場を解消し、職員の労働時間の負担軽減を図り、商圏規模の拡大を図ることで集選果場単位の取引規模拡大をめざす。また、トラック輸送の積載率の上昇により物流の効率化を達成していく必要があると考えている。

コスト削減と物流対策

様々な課題のある中で、特に注視することはコスト削減と物流の問題と認識している。例えば、熊本から各地域への輸送コストを比較すると、広島を「100」とした場合、貸切運賃10t車では

京浜地区で「248」、中京地区で「180」、京阪神地区で「143」、福岡で「51」となるが、小口運賃(kgあたり)に換算すると広島を「100」とした場合、京浜地区で「175」、中京地区では「140」、京阪神地区では「120」、福岡では「75」といったことで、貸切の方が遠隔地コストの上昇率は高い結果が出ている。

また、小口から貸切へ短観した場合の運賃通減率は、広島で「48.5%」、京浜地区で「27.1%」、中京地区で「33.9%」、京阪神地区で「38.8%」、福岡で「64.7%」と、貸切にした方が圧倒的に運賃コストの削減が可能となる。結論から言えば、貸切運賃(積載効率化)にて輸送を可能とすること、八代からより近い荷下ろしできる地区に特化することを図り、輸送コスト削減は無視できない要素となっている。

福山地方卸売市場に対する期待

物流と商圈を考えたときに、消費地に求める要素としては、

- ①貸切運賃(積載効率高)にて輸送ができること
- ②八代からより近い荷下ろし地区

こうした条件を踏まえて商圈を考えると、できるだけ八代から近い西日本をターゲットとすることが必然となり、今後は中四国や九州内の消費地へシェア率と実数を伸ばしていくことができるかが課題となっている。

そうした中で、福山地方卸売市場圏域は70万人の人口を背後に抱え、東京や大阪から西の大きな消費地になれるかどうかがかかっている。近年では、大玉トマトなど主要な品目で、これまで取り扱いがなかった高松市中央卸売市場からの引き合いがあったことは、福山地方卸売市場がなければできなかった取組である。こうした取組をきっかけに新たな商圈拡大につながるよう期待している卸売市場である。

山陰地域、四国全地域へは、今後は強い産地背景がないと運べない・運ばないという産地が出てくる可能性もある中で、物流により商圈を広げる可能性も包含しているということになる。もともと集荷能力がある市場機能と広範囲に運ぶことができる物流機能があれば、より広い商圈を出荷できるということからも、福山地方卸売市場に大きな期待を寄せている。

今後、福山地方卸売市場に期待することは、農業を継続できる生産者の手取りの最大化と物流効率とコスト削減、さらには日本の食糧供給基地としての安定的な供給を可能とすることで、現状の2倍のシェア率向上が期待されるといったWin・Winの関係を保てる可能性が高いと思っている。

「福山地方卸売市場の取り組みについて」 説明者：福山地方卸売市場 市場長 池田幸博氏

福山地方卸売市場の概要

現在の福山地方卸売市場の状況を説明(詳細は省略)

選ばれる卸売市場をめざして

再整備事業の取組とスケジュール、課題解決のための方法と手段を説明(詳細は省略)

「意見交換会」

J Aやつしろ)

先ほど福山通運との連携をめざしていると説明を受けたが、我々は今後、商圏を拡大するためには取引のほとんどない山陰地域や中四国地域との取引が課題と思っている。そういった中で福山地方卸売市場の取組に対する期待は大きいものがあるが、山陰や四国への販路拡大は可能なのか。

福山青果)

山陰や四国の需要は確実にあり、すでに高松市場とは取引を行っている。また、山陰の量販店へ積極的に営業を行っている。山陰や四国の卸売市場では荷が集まらない、揃わないといった実態があり、そうした中で市場間ではプライドがあり(他市場に頼みたくない)、そういう市場は実際には取扱量が減っている。

福山青果)

3年前に社長に就任したときに山陰への供給をどうするかといった議論があつて、実際に役員が山陰の量販店へ営業に行ったが、物自体は欲しいがロットが合わない(小ロットを希望している。)という話になったが、福山通運を利用することで効率化が図れば可能性は十分にある。岡山の北部、津山市といった地域でもやはり運賃がネックとなっている。当市場の再整備が進んでいく中で、再度商談したいと思っている。

委員)

青果物でも水産物でも当市場では今だ混載ができていない。水産物は水が出るということもあるが、そこを解決していかないと効率化は図れない。どういった工夫をしていくのが課題と思っている。水産物でいうとほぼ毎日山陰から荷が届く。その帰り便に青果物を積んでいくとか、市場全体で取り組む必要があると感じている。今後は福山通運を含め、どうやって今の物流を効率化していくかがカギになると思う。

J Aやつしろ)

確かに物流の面では現状簡単にはいかないが、福山地方卸売市場と共通の取組としてやっていきたいと思っている。先ほど説明したとおり Win・Win の関係につながっていければと思う。今後も引き続きよろしくお願ひしたい。

福山地方卸売市場は立地条件も良く、これから取組を拡大されることで活気づくと思うので、J Aやつしろとの結びつきを引き続きお願ひしたい。

J Aやつしろ)

今年の8月11日の大雨の影響で苗が被害に遭い、キャベツは5ha被害が出た。取扱額も41億円が43億円となる予定である。トマトの冬の生産は3種類あるが、その中で2種類のトマトの生産が八代にはある。

J Aやつしろ)

様々な課題に取り組んでいるが、やはりこれからは人材育成が重要と考えている。

委員)

先ほどトマト選果場を拝見して、日本でもトップクラスの選果場ということを知り、大変満足している。立派な施設をお持ちだが、やはり生産者の減少といった問題は八代でもあるのではないかと。今後、生産、集荷、承継といった問題についてどう考えているのか。また、外国人の雇用問題もあると思うが。

J Aやつしろ)

今後、生産者や生産量の確保をしていくためには、やはり販売先である商圏をいかに拡大していくかが重要と思っている。6割は系統系(J A)であるがやはり輸送コストは上昇している。いわゆる露地物といったものでも50%はJ Aを通してもらっている。商圏を拡大するためには、供給できる生産体制を拡大、維持していくことが重要である。

外国人の雇用の問題だが、現状は農家が個々で雇用しているので実態はつかんでいない。J Aとしては特定技能研修生として16名雇用している。すべてトマト選果場での雇用となっている。ただ、選果場も1年中フル稼働しているわけではないので、夏場の量が減る時期には地域連携の一環で阿蘇地域で雇用してもらっている。研修生の給料も確保してあげなければならない。だいたい5年目に総入れ替えになり、11月から新しい研修生を迎える予定である。

J Aやつしろ)

施設園芸では、どうしても外国人に頼らざるを得ないが、基本は1つの場所で1つの雇用を確保してあげないといけない。阿蘇への派遣は外国人にとっても給与面で保障されるならという思いがあるのではないか。市内のいちご農家では家族経営を行っているところが多いが、市内の農家全体でいえば2,000人程度いるのではないか。

J Aやつしろ)

自民党の総裁が変わり、新たな国会が始まるが、今後、国が日本の農業をどうみていくのか、どう影響があるのか注視していきたい。儲かる農業をすることがJ Aの生き残れる条件と考えている。

意見交換会の所感

人口減少により国内の総食料消費量が減少している中で、いかに産地や市場機能を維持していくかが重要である。今回の視察を通じて、生鮮食料品の流通の原点である産地を訪問し、現状の農業がどういった方向で進んでいくのか、また、卸売市場がその中でどういった役割を担っていくのかを研修する視察であった。

産地が大規模な施設整備をして、他の産地との差別化を図ってもその生産物をどうやって消費者へ届けていくのが重要であり、また、産地もそういった視点で取り組んでいることが理解できた。

特に全体で「物流の効率化」という点では、産地も市場も課題であるという認識を持っていることが分かった。いかに効率よく荷を運び、コストをかけずに生産者の所得を向上させることがJ Aやつしろの使命であると感じた。

農産物の高騰が近年顕著になっているが、日本全体の物価上昇にもその影響が大きく、いかに農産物をはじめとした生鮮食料品の単価を抑えていくかが消費者目線では重要であると同時に、生産者や卸売市場では儲かる農業をどうやって維持していくかといった相矛盾する難しい状況にある。今後は日本全体で生鮮食料品の流通コストをどうやって転嫁していくのか、また、そのコスト増を誰が負担していくのが重要であり、そういった視点で卸売市場流通を研究していく必要があると感じた。